Raffiné Journal vol.05

揃っていない方が正確

決めない、と言う。

けれど実際には、
細部まで選ばれている。

揃っていない。
そのずれの方に、
その人は出ている。

横浜流星さんの取材を読んでいて、
語っていることより、
実際の振る舞いの方に残るものがあった。

「こうしよう」は作らない。
瞬間に生じる感情を大切にする。

そう言いながら、
役の濃度を調整し、
声の高さや大きさを探り、
監督と細かくすり合わせている。

自然に任せているように見えて、
実際にはかなり能動的だ。

言葉の上では、手放している。
振る舞いの上では、選び続けている。

その揃っていなさに、
むしろ仕事の正確さが出ていた。

「普通に過ごしていたらそうしない」

そう思う感覚を持ちながら、
観客に届く形へと調整していく。

実感のままでは届かない。
けれど、届かせるために歪ませすぎれば、
もうその役ではなくなる。

そのあいだで、
少しずつ濃度を決めていく。

自然は、放っておくことではない。
壊さずに届かせるための、
静かな調整の中にある。

「決めない」と語る。
けれど現場では、
決めきらないまま選んでいる。

一度受け取り、
違和感が残れば、そのまま通さない。

監督の演出も、
自分の感覚も、
どちらか一方に寄せ切らない。

残すものと、変えるものを、
細かく見続けている。

決めていないのではなく、
固定しすぎないまま、
精度だけを上げているように見えた。

自然に見えるものほど、
実際には整えられていることがある。

任せているように見える人ほど、
どこで通し、
どこで止めるかをよく見ている。

語られている姿勢と、
実際の振る舞いはぴたりとは重ならない。

けれどそのわずかな差に、
甘さではなく、
仕事の輪郭が出ることがある。

人は、
整えていることを語るときより、
整え方の中で、
その人らしさが表に出る。

人は、ときどき
自分のことを、
自分の振る舞いほど正確には語れない。

それは説明の中より、
選び方の中に出る。

「決めない」と言いながら、
細部を選び続けている。

「自然でいたい」と言いながら、
届く形を探っている。

揃っていない。

けれど、
すべてが一致した言葉より、
その揃っていなさの方が、
その人を正確に映していることがある。

揃っている言葉より、
ずれた選び方の方が正確なことがある。

R.

Raffiné Journal vol.05
2026

美学思想家
古川玲奈

発行：Raffiné